

JP64009883U

Patent number: JP64009883U

Publication date: 1989-01-19

Inventor:

Applicant:

Classification:

- international: ***B60P1/00; B62D33/04; B62D53/06; B60P1/00; B62D33/00; B62D53/00; (IPC1-7): B62D53/06; B60P1/00; B62D33/04***

- european:

Application number: JP19870104813U 19870708

Priority number(s): JP19870104813U 19870708

Report a data error here

Abstract not available for JP64009883U

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

公開実用 昭和64- 9883

⑯ 日本国特許庁(JP)

⑰ 実用新案出願公開

⑱ 公開実用新案公報(U) 昭64- 9883

① Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

② 公開 昭和64年(1989)1月19日

B 62 D 53/06
B 60 P 1/00
B 62 D 33/04

A-2123-3D
B-6759-3D
C-7222-3D

審査請求 未請求 (全 頁)

④ 考案の名称 フルトレーラ式連結車

⑤ 実 願 昭62-104813

⑥ 出 願 昭62(1987)7月8日

⑦ 考 案 者 福 岡 淳 二 東京都港区芝5丁目33番8号 三菱自動車工業株式会社内

⑧ 出 願 人 三菱自動車工業株式会 東京都港区芝5丁目33番8号
社

⑨ 代 理 人 弁理士 菅 沼 徹

明 細 書

1 考案の名称 フルトレーラ式連結車

2 実用新案登録請求の範囲

トラクタの後端にトレーラが連結され、上記トラクタの荷箱及び上記トレーラの荷箱がそれぞれその後部に扉を有するフルトレーラ式連結車において、上記トレーラの荷箱の前部に水平軸まわりに回動して外方に向かって開閉しうる観音扉を設けるとともにその下扉を開いたときその基端が上記トレーラの荷箱の床面とほぼ同一面に位置し、その先端が上記トラクタの荷箱の床面に架橋することを特徴とするフルトレーラ式連結車。

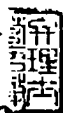
3 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案はフルトレーラ式連結車に関する。

(従来技術)

従来フルトレーラ式連結車においては、トラクタ及びトレーラの荷箱はそれぞれその後部に垂直軸まわりに回動して外方に向かって開閉しうる観音扉を具えている。



従って、トラクターミナル等においてフルトレーラ式連結車に荷物を積載する場合、連結車を後退させてトレーラの後端をトレーラの床面と同一高さのプラットホームに近接させ、トレーラの荷箱の後部観音扉を外方に開いて、荷箱内に荷物を積載する。積載が終了すれば、この後部観音扉を閉じ、連結車を前進させて、所定の場所でトレーラを切り離した後、再び連結車を後退させてトラクタの後端をプラットホームに近接させる。そして、トラクタの荷箱の後部観音扉を外方に開いて荷箱内に荷物を積載する。積載が終了すればこの後部観音扉を閉じ、連結車を前進させ、所定の場所に駐車中のトレーラをトラクタの後方に連結する。

荷物を荷箱から降ろすときも上記と同様の手順となる。

(考案が解決しようとする問題点)

上記従来のフルトレーラ式連結車においては、荷物の積み降ろしが面倒で手数及び時間を要するのみならず、また、積み降ろしの時間中運転手は



乗車して待機していなければならない。そして、トラクタの荷箱への荷物の積み降ろしの時間中トレーラを駐車させる場所とこのトレーラをトラクタに連結し又はこれから切り離すための広い旋回場所をトラックターミナルに用意しておく必要があった。

(問題点を解決するための手段)

本考案は、上記問題点に対処するために提案されたものであって、その要旨とするところは、トラクタの後端にトレーラが連結され、上記トラクタの荷箱の上記トレーラの荷箱がそれぞれその後部に扉を有するフルトレーラ式連結車において、上記トレーラの荷箱の前部に水平軸まわりに回動して外方に向かって開閉しうる観音扉を設けるとともにその下扉を開いたときその基端が上記トレーラ荷箱の床面とほぼ同一面に位置し、その先端が上記トラクタの荷箱の床面に架橋することの特徴とするフルトレーラ式連結車にある。

(作用)

本考案においては上記構成を具えているため、



荷物の積み降ろし時に、トレーラの荷箱の前部に設けられた観音扉を開くと、その下扉の基端はトレーラの荷箱の床面と同一面に位置し、先端はトラクタの荷箱の床面に架橋されるので、この下扉上を通してトラクタの荷箱内の荷物を積み降ろすことができる。

(実施例)

本考案の1実施例が第1図に示されている。

第1図において、トラクタ1の後端にピントルフック10を介してトレーラ4が連結され、トラクタ1の荷箱2の後部には垂直軸まわりに開閉される観音扉3が設けられ、トレーラ4の荷箱5の後部には垂直軸まわりに開閉される観音扉6が設けられている。

トレーラ4の荷箱5の前部には水平軸8a、8bのまわりに回動して外方に向かって開閉される観音扉7が設けられている。観音扉7の下扉7aは水平軸8aのまわりに回動しこれを開いたとき、実線に示すように、その基端が荷箱5の床面5aとほぼ同一面に位置し、先端が荷箱2の床面2aに架橋され

るようになっている。上扉7bは水平軸8bまわりに回動し、これを開いたとき、実線に示すように荷箱2と荷箱5との間隙を覆う屋根を構成する。11はプラットホームで、荷箱2、5の床面2a、5aとほぼ同一高さとされている。

しかして、荷物を積載する場合には、図示のように、連結車を後退させてトレーラ4の後端をプラットホーム11に接近させ、荷箱2及び5の後部扉3及び6を開き、しかる後、荷箱5の前部に設けられた観音扉を開く。

すると、この観音扉7の下部扉7aは荷箱2、5の床面2a、5aとほぼ同一高さで水平となり、かつ、その先端は荷箱2の床面2aに架け渡される。かくして、下部扉7aは床面2aと5aを連結する橋又は渡し板としての機能を果たす。また、観音扉7の上部扉7bはほぼ水平となって荷箱2と荷箱5との間隙を覆う屋根としての機能を果たす。

かくして、プラットホーム11から荷箱5の後部から荷箱5の床面5a、下部扉7a上を通りトラクタ1の荷箱2内に荷物を積載し、荷箱2内への積み

込みが終了すればトレーラ 4 の荷箱 5 内に荷物を積載する。

荷物の積載が終了すれば、荷箱 4 の前部観音扉 7 を閉じ、次いで、荷箱 2 の後部扉 3 を閉じる。荷箱 4 の後部扉 6 は何時閉めても良い。

荷物を降ろす場合も上記と同様の手順で降ろすことができる。

しかして、荷物の積み降ろしに際し、連結車を移動したり、トレーラ 4 を切り離し又は連結したりすることなくトラクタ 1 の荷箱 2 及びトレーラ 4 の荷箱 5 に荷物を積み込み又は降ろすことができるので、荷物の積み降ろしを容易、かつ、迅速に行うことができる。

そして、上扉 7b が屋根として機能するので、雨天においても荷物をその積み降ろしに際し雨で濡らすことはない。

なお、下扉 7a の長さはこれを開いたときその先端が荷箱 2 の床面 2a に架橋できれば足り、長過ぎると、荷箱 2 への荷物の積載量が減少する。

また、上記実施例においては、荷箱 2 及び 5 の

後部扉 3、6 は垂直軸まわりに開閉される観音扉とされているが、水平軸まわりに開閉される観音扉とすることができ、特に、荷箱 5 の後部扉を第 2 図に示すように床面 5a の後端に配設された水平軸 11 まわりに開閉される一枚の扉 12 とすれば、この扉 12 を開いてその先端を地面 G に接地させることによりこの扉 12 を荷物積載用フォークリフト 13 の走行路として利用できる。

(考案の効果)

本考案においては、トラクタの後端にトレーラが連結され、上記トラクタの荷箱及び上記トレーラの荷箱がそれぞれその後部に扉を有するフルトレーラ式連結車において、上記トレーラの荷箱の前部に水平軸まわりに回動して外方に向かって開閉しうる観音扉を設けるとともにその下扉を開いたときその基端が上記トレーラの荷箱の床面とほぼ同一面に位置し、その先端が上記トラクタの荷箱の床面に架橋するようにしたため、荷物の積載に際し、トラクタ及びトレーラの荷箱の後部扉を開くとともにトレーラの荷箱の前部に設けられた



観音扉を開くことによって、その下扉をトレーラの荷箱の床とトラクタの荷箱の床を連結する橋又は渡し板として利用できるのも、トレーラの荷箱内及び下扉上を通して荷物をトラクタの荷箱内に積み込み又は降ろすことが可能となり、従って、荷物の積み降ろしを容易、かつ、迅速に行うことができる。しかも、荷物の積み降ろし中に連結車を移動する必要がなくなるので、連結車の運転手が乗車して待機する必要がなく、また、トレーラを切り離し又は連結するための広い場所も不要となる。

4 図面の簡単な説明

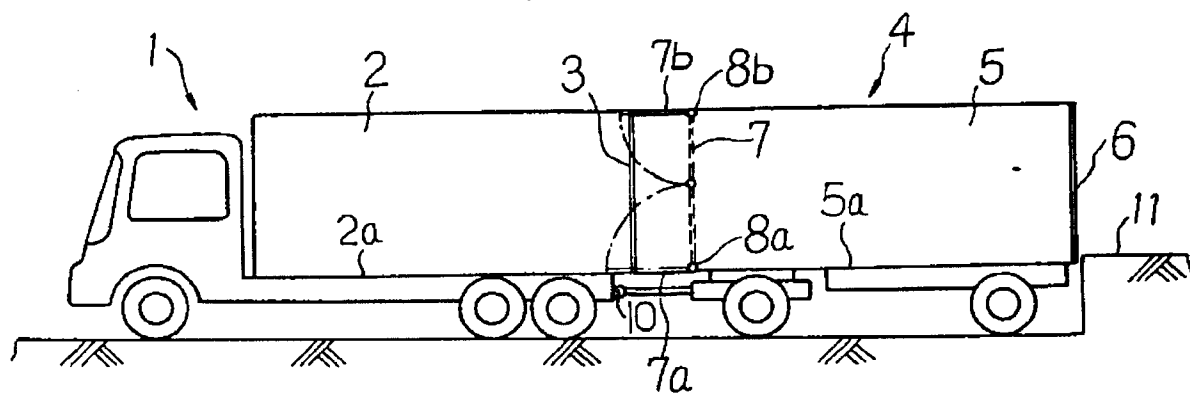
第1図は本考案の1実施例を示す略示的側面図、第2図は本考案の他の実施例を示す部分的側面図である。

トラクタ—1、荷箱—2、床面—2a、後部扉—3、トレーラ—4、荷箱—5、床面—5a、後部扉—6、観音扉—7、下部扉—7a

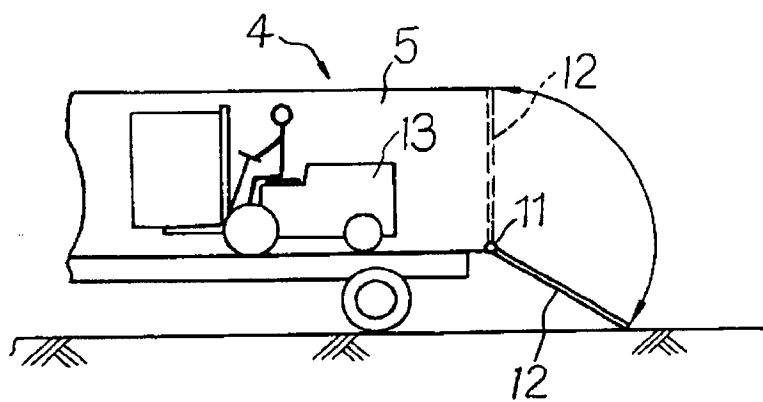
代理人 弁理士 菅 沼 徹



第1図



第2図



1102